

令和元年6月7日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02261

研究課題名(和文)古代日本における「天界」表象の意味・構造・機能

研究課題名(英文)The meaning, structure and function of the "heaven world" representation in ancient Japan

研究代表者

長岡 龍作 (Nagaoka, Ryusaku)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：70189108

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、古代日本の世界観において、盧舎那仏の浄土への往生の前段に「天界」が想定されていたとする新たな観点を踏まえ、『華嚴経』に基づく「天界」という思想に着目するとともに、世界としての「天界」表象の位相を明らかにすることを目的としている。そのため、(1)「天界」の意味、(2)「天界」表象の構造、(3)「屏風・障子」の機能、を項目として設定し研究を進めた。(1)については文献の読解に基づき思想的な検討をおこない、(2)については「天界」と「神仙世界」の習合の構造を美術作品の表現の検討を通して考究し、(3)については正倉院宝物の屏風の意義を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、美術史において、『華嚴経』に基づく「天界」という思想に着目し、その美術表象を考究する研究はなかった。この思想の前提には『華嚴経』が説く蓮華蔵世界があり、正倉院の屏風は、盧舎那仏浄土を目指す聖武天皇のために「天界」を表象しているとするのが本研究の立脚点である。そこから本研究では、「天界」を他界の一つとして想定し、「天界」表象のありようと「天界」を表現する美術の宗教的機能を考察した。これらはいずれも、従来の美術史にはない新しい視座であり、既知の美術作品が持っている宗教的意味を新たに浮上させる成果となった。

研究成果の概要(英文)：In ancient Japan, the "heaven world" was assumed to precede the passage to the pure land of Vairocana. I focused on the idea of the "heaven world" based on "Avatamsaka Sutra", and aimed to clarify the phase of the "heaven world" representation as the other world. In order to conduct research, I set three points of view, (1) the meaning of the "heaven world", (2) the structure of the "heaven world" representation, and (3) the function of "folding screen and shoji". For point (1), I conducted philosophical examination based on reading of the historical documents, for point (2), I analyzed the structure of syncretistic fusion of "heaven world" and "Shenxian world" through examination of the expression of art works, and for (3) I considered the meaning of the folding screens in the Shosoin treasures.

研究分野：東洋日本美術史

キーワード：天界 十地思想 蓮華蔵世界 神仙世界 正倉院 屏風 古代金銅仏 絵巻物

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始時に、代表者は正倉院の屏風が表象する意味についてすでに検討を加えていた(『蓮華蔵世界と正倉院の屏風』『仏教美術論集5 機能論 つくる・つかう・つたえる』竹林舎 2014年)。正倉院宝物の根幹は、天平勝宝八年(756)六月二十一日の聖武天皇の四十九日に際して光明皇后によって大仏に奉納された宝物群である。奉納目録である「国家珍宝帳」を確認すると、亡き聖武天皇は、「十地」の世界を通過し「花蔵の宝刹」に到るよう願われている。「花蔵の宝刹」とは盧舎那仏の浄土「蓮華蔵世界」のことで、「十地」とは菩薩の十段階の境地のことだ。『華嚴経』によれば「十地」の各段階は、それぞれの「天界」に配当される。ここから、亡き聖武天皇は、「蓮華蔵世界」に到達する前に「天界」にいると見なされていたことがわかる。また、「国家珍宝帳」は、宝物を喜捨する功德によって亡き聖武天皇を助けたいとする願意をあらわしている。

従来、正倉院宝物については、生前の聖武天皇の遺愛の品として、その宗教的な意味が問われることはなかった。しかしながら、死後の居場所が明確に意識された聖武天皇を助けるために宝物が奉納されたとみるならば、宝物は死後の聖武天皇と具体的に関係するものとして分析される必要がある。さらに、宝物には「百畳」(百扇)という多量の屏風が含まれている。宝物の機能を理解する手がかりとして、屏風の役割に着目することが有効と考えられる。

以上の問題意識から、代表者は正倉院の屏風のモチーフを解析し、屏風の機能に一つの見出しを見いだした。すなわちそれは、「十地」に配当される「天界」を上昇しつつ盧舎那仏の浄土を目指す聖武天皇の精神に作用し、その実現に資するという役割である。

## 2. 研究の目的

本研究は、この成果を踏まえ、(1)「天界」の意味、(2)「天界」表象の構造、(3)屏風・障子の機能の三つの問題を、より包括的に考究することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1)「天界」の意味

死後世界としての「天界」は、一般に切利天・兜率天が知られている。『法華経』「普賢菩薩勸発品」は、『法華経』に基づく実践を三段階に分け、中位の実践で兜率天、下位の実践では切利天に往生できると説く。このように、この二つの天界は主に『法華経』信仰に基づいて到達できるとされた他界である。それに対し、聖武天皇の場合は、『華嚴経』に基づき「天界」を死後の他界と見ている。この思想における「天界」は、その先の世界に到達する実践の場という意義がある。従来の研究ではほとんど取り上げられていないこの観点に基づき、他の事例を含めて検証する。

### (2)「天界」表象の構造

「天界」という場に見いだす本研究では、場の視覚化という観点から「天界」の表象を分析する。天界(夜摩天)の光景を詳細に描写するのが、『正法念処経』(『大正新修大蔵経』第17巻)であり、その内容は正倉院の屏風のモチーフとよく符合している。『正法念処経』は、天平十九年(747)三月の正倉院文書に記載があることにより、奈良時代には受容されていることが知られている。この項目では、『正法念処経』の内容をさらに検証して天界の光景をより詳細に再現する。

一方、「国家珍宝帳」中で、天界にいる聖武天皇は「仙儀」(仙人)と呼ばれている。このことが導くのは、「天界」が「神仙世界」と重ねられてイメージされているという事実である。古

代日本における「天界」表象を理解するには、この「神仙世界」との習合の構造の解明が不可欠であるので、美術作品と資料の探索により、その様相を明らかにする。

### (3) 屏風・障子の機能

正倉院の屏風の機能を端的に示すのは、文字をあらわす二つの屏風（鳥毛篆書屏風・鳥毛帖成文画屏風）である。いずれも箴言が書かれているこれらの屏風には、聖武天皇の精神に作用するという効果があった。そのことから、他の屏風にも「天界」にいる聖武天皇に対して、享楽に溺れないように警鐘を鳴らすという役割があったと考えられる。屏風の主題は精神に作用するという観点から読解されるべきであり、屏風・障子はいかなる宗教的な場を形成したのかという問題を孕んでいる。この項目では、文献に見られる古代の屏風・障子を検証してその意義を解明する。

## 4. 研究成果

上記の方法に基づき、(1)「天界」の意味、(2)「天界」表象の構造、(3)屏風・障子の機能、の各項目によって調査研究を進めた。

### (1) 「天界」の意味

『華嚴経』に基づく「十地思想」と「蓮華蔵世界」・「天界」への往生についての思想的な検討を踏まえ、『国家珍宝帳』（正倉院文書）空海『秘蔵宝鑰』の読解をおこなった。特に、空海の「十住心論」を解析することは、「十地思想」の平安時代への展開を考える上で不可欠の課題との展望を得、その理解を進めた。同時に、空海による草創期高野山の造営思想を検討し、空海の『大日経』理解に基づくものであることを解明した。さらに清涼寺釈迦如来像に対する齷然の思想に「蓮華蔵世界」が含まれていることを見出し、胎内納入品をその観点から分析した。

### (2) 「天界」表象の構造

『正法念処経』をあらためて読解し、「天界」表象の典拠の具体相を確認した。

以下の各カテゴリーに沿って事例調査をおこなった。

#### 絵巻物

「信貴山縁起絵巻」（朝護孫子寺）については、神仙世界の表象としての信貴山を検討した。「伴大納言絵巻」（出光美術館）・「吉備入唐絵巻」（ボストン美術館）については、王をめぐる画中画の意義について検討した。「玄奘三蔵絵」（藤田美術館）については、特に須弥山表現に着目し表現上の特色を新たに見出した。「一遍聖絵」（清浄光寺）・「桑実寺縁起絵巻」（桑実寺）については、聖地表象の絵画的レトリックを見出した。そのほか、「法然上人絵伝」（知恩院）「病草紙」（東京国立博物館ほか）を検討した。

#### 神祇表象と神仙世界表象との習合

・「春日権現験記絵」（三の丸尚蔵館）「春日宮曼荼羅」（東京国立博物館、根津美術館、南市町自治会）「春日補陀落山曼荼羅」（根津美術館）「春日社寺曼荼羅」（奈良国立博物館、根津美術館）海北友松「月下溪流図屏風」（ネルソンアトキンズ美術館）萬鐵五郎「蓬萊山図」（岩手県立美術館）を対象に、中世～近代の神祇表象に見られる習合表現を検討した。

・宮城船形山神社金銅菩薩立像、新潟関山神社金銅菩薩立像、長野観松院金銅菩薩半跏像を現地において調査し、古代金銅仏の神祇信仰における意味について検討した。

#### 仏教的浄土観と神仙思想

・千葉県成田市龍正院・千葉県銚子市円福寺を現地調査し、坂東三十三所札所における補陀落山浄土表象について検討した。

・「六道絵」（聖衆来迎寺）「阿弥陀三尊ならびに童子像」（法華寺）十三重塔埋納遺品（白毫

寺) 觀尊像納入品(西大寺) 吉祥天立像(浄瑠璃寺) 兜跋毘沙門天像・老相神像・深沙大將像(出雲市萬福寺) 木造十一面觀音像・阿彌陀如来像・聖觀音像・聖觀音坐像・蔵王権現像・不動明王像(福井県丹生郡越前町大谷寺) 薬師如来坐像(山梨県大善寺) 釈迦如来像及び両脇侍像(静岡方広寺) 韋駄天像(京都萬福寺)を対象に、仏教美術に見える神仙思想に由来する表現を検討した。

・平等院鳳凰堂空間、法勝寺をめぐる文献、法勝寺址、法勝寺出土遺物、大報恩寺本堂空間と釈迦如来坐像・十大弟子をそれぞれ調査し、仏教建築空間における仏教と他の思想との習合状況について検討を加えた。

・古代下野国の遺跡(下野国分寺跡・下野国庁跡・大神神社・大慈寺・村檜神社) 中世鎌倉の遺跡・遺物(杉本寺・永福寺・鎌倉歴史文化交流館) 古代豊前国の遺跡と彫像(耶馬溪羅漢寺無漏窟五百羅漢像ほか石像・弥勒窟弥勒菩薩坐像)をそれぞれ調査し、古代中世遺跡における景観と表象との関係について検討した。

#### 死後世界の表象

・中国浙江省臨安市水丘墓・康陵出土品を対象に、北宋時代の墳墓美術に見える習合表現を検討した。

・大覚禅師坐像(鎌倉建長寺) 觀尊像(西大寺)を対象に肖像彫刻の宗教的意義を検討した。  
・快慶作阿彌陀如来立像(東大寺ほか) 快慶作弥勒菩薩坐像(醍醐寺三宝院) 快慶作弥勒菩薩立像(ボストン美術館) 六觀音像(大報恩寺)を対象に、他界観と関わる表現について検討した。

#### (3)屏風・障子の機能

正倉院宝物の屏風の意義をあらためて検討し、新たな成果を得るに至った。その成果は「奈良時代東大寺における「天」の意義と造形」(下記、5.主な発表論文等参照)として刊行した。

#### 5.主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

長岡龍作、奈良時代東大寺における「天」の意義と造形、『東大寺の新研究 第三巻 東大寺の思想と文化』(法藏館) 査読なし、2018、185-225 頁(総頁 632 頁のうち)

長岡龍作、感応と図様 仁寿舍利塔に見る表象形式と思想、『アジア仏教美術論集 東アジア(隋・唐)』(中央公論美術出版) 査読なし、2018、255-288 頁(総頁 626 頁のうち)

長岡龍作、空海の思想と草創期高野山の伽藍と仏像、『空海と高野山の至宝』展カタログ(共同通信社) 査読なし、2017、24-32 頁(総頁 184 頁のうち)

長岡龍作「平等院鳳凰堂の阿闍世王説話 頼通時代の阿彌陀信仰の基層」、『知の挑発 平安後期 頼通文化世界を考える 成熟の行方』(武蔵野書院) 査読なし、2016、95-125 頁(総頁 474 頁のうち)

長岡龍作「山寺と仏像」、『日本の古代山寺』(高志書院) 査読なし、2016、289-320 頁(総頁 371 頁のうち)

〔学会発表〕(計 7 件)

長岡龍作、清涼寺釈迦如来像の胎内に見る信仰世界、名古屋大学・ハーバード大学国際ワークショップ「像内納入品研究の地平」、2018、招待講演、国際学会

長岡龍作、靈験仏をつくる 頼焼阿彌陀縁起をめぐって、シンポジウム「運慶と東国の宗教世界」、2018、招待講演

長岡龍作、仏教の礼拝空間 超越者との交感と美術、美術史学会全国大会シンポジウム「礼拝空間 - 超越者と対峙する場の創造」2016、招待発表

長岡龍作、フレームとしての寺院空間と仏像、学習院大学国際シンポジウム「フレームの超域文化学 世界認識と古典知」、2016、招待発表、国際学会

長岡龍作、明治初期の「美術史」、高橋由一と岡倉天心、吉林大学 東北大学シンポジウム「近代日本の文化とナショナリズム」、2016、国際学会

長岡龍作、古代日本の仏教空間と表象 世界観と思想から考える、アジアの建築交流国際シンポジウム、2016、招待発表、国際学会

長岡龍作、"Represented Landscapes in Japanese art and Its Religious Meaning", Knowledge Forum, Knowledge and arts on the move: transformation of the self-aware image through East-West encounters, Tohoku University, 14th February, 2017、国際学会

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。